北海道Society5.0の実現に向けた追い風としたい5つの要素

資料4

※朱書きは、事前送付資料からの修正箇所

要素	実施中の取組（現在の状況）	新たな取組（今後期待される展開）
電　力	● 広大な大地と豊かな自然が育む豊富な再生可能エネルギーが存在 （再エネ導入ポテンシャル：太陽光・風力・中小水力は全国1位、地熱は2位） ● 豊富な再エネの供給拠点として送電インフラを増強 ・道と本州間の海底直流送電ケーブルの着実な整備（2030年までに日本海ルートで200万kWを先行整備） ・道内の系統増強	→ ・2050年までに、日本海ルート及び太平洋ルートにより、さらに400万kWの海底直流送電ケーブルを整備
通　信	● 北米・欧州との地理的近接性を活かした国際海底通信ケーブルの誘致を展開 ● 2025年7月、総務省はソフトバンクによる北米から日本（苫小牧・糸島）、韓国、台湾を繋ぐ海底通信ケーブルについて、苫小牧や糸島へのケーブル分岐支線への補助を決定	→ ● 本道と首都圏等を結ぶオール光ネットワークの整備 ● 欧州から北極海を経由し本道に接続する北極海海底通信ケーブルの陸揚げの可能性 ● 将来的には、本道をアジアのデジタル・通信のハブへ発展
ＡＩ	● AI活用に向けて国の動きが一層活性化 ・AI北海道会議の設置（全国で唯一） ・AI法施行（2025.6.4）、AI基本計画策定（2025年内予定）	→ ● 規制改革等を推進 ● 広大な大地や積雪寒冷などが生み出す多様な実証フィールドを徹底活用してAIの研究開発を推進 ・スタートアップ等の集積 ● 道内外でのAIの利活用促進により全国の地域課題解決に貢献
半導体	● 豊富な再エネを求めてラピダス社の次世代半導体製造拠点が立地 ・パイロットラインでの試作成功 ・半導体関連産業の集積	→ ● 次世代半導体製造拠点を核としたサプライチェーンが構築 ● AIやロボティクス、自動運転等に次世代半導体が活用 ● 次世代半導体を活用したデータセンターが立地
データセンター	● 豊富な再エネや冷涼な気候などの立地優位性を活かし、データセンターの立地が進展 ● 2023年5月、国は本道を東京・大阪圏を補完・代替するデジタルインフラの中核拠点に位置付け	→ ● GX2040ビジョンやワットビット連携の動きを踏まえ、今後、本道でのデータセンターの集積エリアの構築の可能性